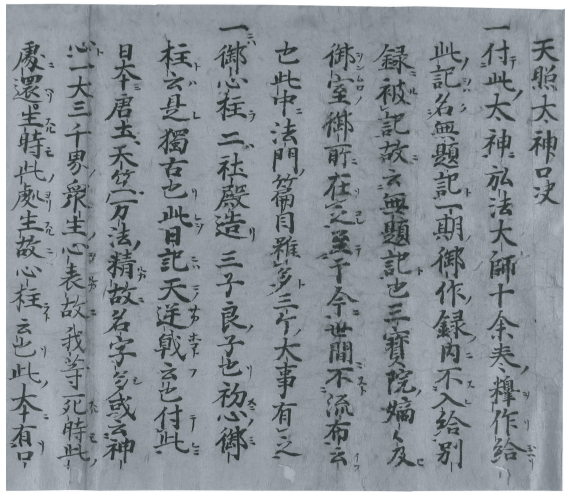
天照太神口決
一付此太神弘法大師十余夏撰作給
此記名無題記一期御作録内不入給別
録被記故云無題記也三寶院嫡々及
御室御所在之至于今世間不流布云
也此中法門篇目雖多三ケ大事有之
一御心柱二社殿造三子良子也初心御
柱云是獨古也此日記天逆戟云也付此
日本唐土天竺万法精故名字多或云神
心二大三十男衆生心表故我等死時此
處還生時此處生故心柱云也此本有口

七　天照太神口決　てんしょうだいじんくけつ

図書館所蔵、貴重書一一九三号。巻子本。艶出し紺色表紙。巻頭に「天照太神口決」とある。縦二三・九糎、横五〇八・五糎。十四枚の継紙から成り加点本である。見返しに「稲生社別當福満山神宮寺什物／現住比丘惠運／修補之」とあり、題簽鳥子に肉筆で「天照大神口決」とある。料紙は楮紙。

※　※

本書は鎌倉末期成立の両部神道書の一つ。別名『天照太神両宮秘法』とも称し、空海に仮託された神道書である。その冒頭には「三宝院嫡々及御室御所」にのみ伝えられた天照大神についての空海の口決であると述べる。そして、大神に関する「大事」の口伝説を五箇条にわたり記したものである。その中心は、前半の（一）心御柱、（二）社殿、（三）子良子の「三箇大事」三条である。そして（四）差図口決として空海仮託の『理趣摩訶衍』三巻の中巻を引き、（五）末社口決（別社事）では、弘法大師入定秘話が付記されている。國學院大學図書館本に奥書はないが、玉川大学蔵本、天理図書館・保井文庫蔵本等の伝本に、嘉暦二年（一三二七）の奥書がみられる。この奥書によれば『天照太神口決』は「空海高宮入定」説を伝える最も早い例であり、三宝院流の道順（？～元亨元年・一三二一）が神宮を巡る秘説を智円に伝授し、智円の口述により覚乗（文永十年・一二七三～貞治二年・一三六三）が筆録したものであると伝える。覚乗とは叡尊（建仁元年・一二〇一～正応三年・一二九〇）の弟子であり、伊勢神道・両部神道と三輪流神道を相承し、これらを結びつける上で重要な人物である。

見返しに記されている「稲生社」とは、伊勢国奄芸郡稲生村（現三重県鈴鹿市稲生町）に鎮座する「伊奈富神社」である。式内社であり、初見は貞観七年（八六五）の記事。また「福満山神宮寺」は、真言宗古義派の寺院であり、天平年間（七二九～七四九）に行基が開いたと伝える。伊奈富神社の神宮寺として、僧侶は神社の別当を兼ねた。

（精園佳子）

【所収本】

『神道大系　真言神道（下）』神道大系編纂会、平成四年（一九九二）

【参考文献】

右所収本の解題（村山修一執筆）
門屋温・伊藤聡「空高宮入定説話関係資料について―その翻刻と紹介」『論叢アジアの文化と思想』二号、平成五年（一九九三）